

農業生産環境の変化に適応した持続可能な農業栽培技術の開発

【令和4年度予算概算決定額 61 (39) 百万円】

<対策のポイント>

国際農業研究機関への資金拠出により、途上国の農家が実施可能で、農業環境変化に適応した持続可能な農業栽培技術等を開発するとともに「みどりの食料システム戦略」の目標達成に貢献します。

<政策目標>

- 生物的硝化抑制 (BNI) 能を活用して温室効果ガス (GHG) 排出を2割削減する栽培管理システムを開発 [令和4年度まで]
- BNI能を活用し、GHG排出量2割削減可能なコムギを5品種開発 [令和5年度まで]
- 耐塩性・耐干性に優れたイネを2品種開発 [令和8年度まで]

<事業の内容>

1. 農業温室効果ガス削減のための栽培管理システム及び作物の開発

20 (22) 百万円

開発済みの高BNI能牧草と我が国のICT技術を組み合わせることで、GHGの発生を抑制する効率的な栽培管理システムを開発します。また、GHGの発生を抑制するイネの品種を開発します。

(拠出先：国際熱帯農業センター (CIAT))

2. 高度生物的硝化抑制 (BNI) コムギによる窒素施肥量削減と環境保全

17 (17) 百万円

高BNIコムギシステムを利用した新品種を育成するとともに、BNI能に関する新たな遺伝子を特定し、施肥量・GHG排出量を大きく削減できる可能性をもつ集積システムを作出します。

(拠出先：国際とうもろこし・小麦改良センター (CIMMYT))

3. 気候変動に対応するための耐塩性・耐干性イネの開発

24 (-) 百万円

気候変動等により、増加している塩害等に対応するため、IRRIが保有する遺伝資源を活用し、耐塩性・耐干性に優れたイネの品種を開発します。

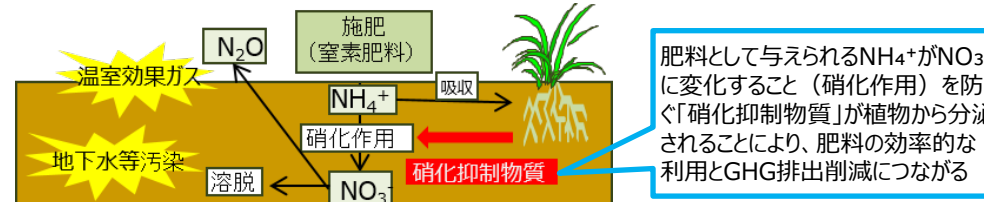
(拠出先：国際稲研究所 (IRRI))

<事業イメージ>

1. 農業温室効果ガス削減のための栽培管理システム及び作物の開発



2. 高度生物的硝化抑制 (BNI) コムギによる窒素施肥量削減と環境保全



3. 気候変動に対応するための耐塩性・耐干性イネの開発



<事業の流れ>

拠出金

国

日本 (100%)

国際熱帯農業センター (CIAT)
国際とうもろこし・小麦改良センター (CIMMYT)
国際稲研究所 (IRRI)

【お問い合わせ先】

(1) 輸出・国際局国際地域課

(03-3502-5913)

(2) 農林水産技術会議事務局国際研究官

(03-3502-7466)